



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
1月の休館日: 1祝~3木・7月・15火・21月・28月

1月 1月27日(日) 14:00~
オペラ物知り講座 in ひこね
ーモーツァルト魔笛ー
☆観客席から見ただけでは分からない、オペラの成り立ちや秘密を、生の演奏とさまざまなエピソードや解説を織り込みながら、ハイライトで楽しむ講座です。
自由 1,500円(当日2,000円) 【好評発売中】

2月 2月11日(月祝) 17:00~
小椋佳「歌談の会」
指定 1階席:4,500円、2階席:3,500円 【好評発売中】

3月 3月15日(土) 18:30~
渡辺貞夫クインテット 2008
指定 1階席:大人5,000円/18歳以下1,000円
2階席:大人4,000円/18歳以下1,000円
【1月6日(日) 発売開始】
※窓口販売 9:00~(一人4枚まで)、
電話予約 11:00~
【窓口販売で完売した場合、電話予約はありません。】

以降 3月20日(木祝) 15:00~
**エコメモリアル・チェンバー
オーケストラ 演奏会**
自由 大人2,000円 18歳以下1,000円
(当日:各500円増) 【好評発売中】

マーク: 託児サービスがあります。(要予約)
※公演日の1週間前までにご予約ください。
マーク: 公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。(有料)

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
1月の休館日はありません。

開館時間 8:30~17:00(入館は16:30まで)

1月1日(火祝)~2月5日(火)
「多賀大社の名宝」
「延命長寿の神さま」として、篤い信仰が寄せられてきた多賀大社。その社宝の中から、優れた美術工芸品の数々を展示します。

 ちょうば 威馬図 (重要文化財)・多賀大社蔵
観覧料が必要です

ギャラリートーク「多賀大社の名宝」
1月12日(土) 14:00~15:00
解説:本館学芸員 坪内 広子(つばうち ひろこ)
※事前申し込みは不要です。当日館内講堂にお集まりください。

ほんのとの出会
ー常設展示の名品ー
譜代大名筆頭・井伊家に伝来した大名道具を中心に、日本の美と歴史にせまります。
「武器・武具」「能面・能装束」「茶道具」「湖東焼」「雅楽器」「調度」「絵画」「古文書」などの名品が次々と登場します。

2月4日(月)まで
色漆塗牡丹鳳凰文六脚卓
赤、緑、茶の彩漆を塗り分けて牡丹と鳳凰をあらわす。中国風の華やかな卓。
勝見不利手引(重要文化財)
井伊直弼が、国語学研究のために作成した図。

常設展示の名品

市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294
1月の休館日: 1祝~3木・8火・15火・22火・29火

20日(日) 9:30~11:30
**フレッシュスポーツデー
ニュースポーツの部**

1月 予定種目 ダブルダッチ、ポートボール、キンボール、ファミリーバドミントンほか
会場 市民体育センター・第2競技場
参加費 小学生以上1人200円
(当日、受付でお支払いください。)
※運動のできる服装と、体育館シューズが必要です。
※予定種目については、一部変更する場合があります。ご了承ください。

児童虐待防止シンポジウム
日時: 1月28日(月) 13:30~16:30 場所: みずほ文化センター

内容 講演「子どもに対する虐待」~私たちにできること~
講師 高橋直紹さん(弁護士)
対談 高橋直紹さん、吉田久美子さん(彦根市児童虐待防止ネットワーク委員長)

その他 託児あり(希望する人は1月23日(水)までに要予約)
問い合わせ先 園子ども青少年課 ☎23-9590、FAX26-1768



彦根市の隣町、多賀町に鎮座する多賀大社は、「延命長寿の神さま」として、古くから篤い信仰が寄せられてきました。殊に江戸時代には、多賀信仰の高まりとともに、日本全国から大勢の人々が参詣に訪れ、多賀大社は近江国の名所の一つになっていました。

多賀大社と彦根藩井伊家との関わりは深く、藩主もしくは代理の家老がたびたび参詣するだけでなく、時には江戸幕府と大社との連絡を取り持ったり、祭事の際の警固役を務めたりもしました。4代藩主井伊直興が、正徳2年(1712)に

奉納した灯籠は、竿の部分に「正四位上左近衛中将兼掃部頭藤原朝臣直該」と刻まれ、今でも拝殿の両脇に並んでいます。「直該」は、当時直興が名乗っていた名前です。当館には、多賀大社にゆかりの茶道具が伝わっています。13代藩主直弼が作った、茶会などで菓子盛るための木製溜塗の器がその一つです。縦26.5cm、横23.5cmの大きさで、3~5人分の菓子を載せることができます。木口に、「飯盛山」の木で作った江州犬上郡多賀大社の神器」という意味の文字と、直弼の花押が金時絵で記されています。「多賀大社の神器」、つまりこれは「多賀杓子」の柄を切り落として作られた器なのです。

多賀杓子は、病気の元正天皇へ杓子と強飯(米を蒸して炊いたパラパラとした飯)とを献上したところ、たちまち快癒したという故

事にちなんだ、多賀大社の縁起物です。杓子というと、現在の私たちが、ご飯をすくう部分が平らなものを見慣れていますが、元は強飯をすくえるようにスプーンに似た形をしていました。この菓子器も4cm程の深みがあります。実用というよりは縁起物として作られた、長さ1m程の大きな杓子を見て、直弼は菓子器とすることを思いついたのです。

実際にこの菓子器を、江戸(東京)での茶会で使った記録が残っ

写真的菓子器は、常設展示「ほんのとの出会」で、2月5日(火)まで展示しています。

多賀杓子菓子器(上)と、多賀大社の神器で作ったことを表す文字(右)

当館では新年元旦から、テーマ展「多賀大社の名宝」(1月1日~2月5日)を開催します。普段は厳重に保管され、目にする事ができない、中世以来の古文書や奉納された絵画・刀剣など、多彩な美術工芸品を紹介するとともに、併せて、常設展示「ほんのとの出会」では「多賀杓子菓子器」を展示します。初詣の折に、彦根藩主と多賀大社との関わりをご覧になってはいかがでしょうか。

(彦根城博物館学芸員 坪内広子)

第137回